

令和6年度以降使用教科用図書（小学校全教科）の採択結果について（報告）

このことについて、杵西・藤津地区教科用図書共同採択地区協議会における選定図書資料に基づき、当教育委員会では、下記のように採択することに決定しましたので、お知らせします。

記

種目	発行者番号	発行者略称	採択理由
国語	2	東書	単元毎にしっかりと基礎基本を完全習得できるつくりになっている。練習問題用の二次元コードが準備されており、端末上で習得した学習内容を定着させやすい。また、「学習の流れ」の図解があり、習得済の力から、新しく習得すべき力へと、学び全体が見渡せるようになっており、主体的な学びが期待できる。
書写	2	東書	鉛筆や筆の持ち方を、子ども目線の写真で説明されており、分かり易い。全学年に共通して、毎時間の学習の振り返りが設定され、自己評価できるつくりとなっている。また、「文字といっしょに」では、言語文化的に価値ある習慣や文章を視写できる内容となっている。
社会	116	日文	「空間」「時間」「関係」などの調べる際の視点が数多く提示しており、「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら比較・分類したり、関連付けたりすることができるようなつくりとなっている。また、学習内容とSDGsを関連付けて考えられるよう「SDGs目標シール」が全学年巻末に添付されている。
地図	46	帝国	主体的な学びを促す問い「トライ！」や「地図マスターへの道」を数多く配置し、社会科の知識や地図の活用法を身に付けることができるつくりとなっている。また、情報量が少ない「広く見わたす地図」と情報量の多い詳しい地図から「世界地図」の順に配列し、児童の発達段階や学年の学習内容に応じて活用することができるように配慮されている。
算数	61	啓林館	キャラクターのつづやきによる考えの視点などの掲載を通して、課題解決の見通しを立てたり、筋道を立てて解決の方法を考えたりすることができるような構成となっている。また、第2学年以降の巻末に「学びのサポート」として、学習前、学習後に取り組める問題や学習内容のまとめが掲載されている。
理科	4	大日本	学習過程が【問題を見つける→問題→予想→計画→実験→結果→考察→結論】の流れで統一されており、見通しをもって課題解決活動ができる内容となっている。また、動画等の情報により視覚的な資料が豊富にあり、より具体的に実験の方法などが理解できるつくりとなっている。紙面には、豊富なルビやUIフロントの使用により、より多くの児童が見やすくわかりやすい工夫がなされている。
生活	61	啓林館	単元が3つの過程で構成され、学習後の活用の姿が示されている。デジタル探検ブックや図鑑ページも充実しており、学びを広げたり深めたりできるつくりとなっている。また、教室での活動やグループの話し合いのイラストが多く、教室での学習をイメージしやすい内容となっている。
音楽	27	教芸	「考える」「見つける」「歌う、演奏する、つくる」のマークを示し、見通しをもち、学習を進めることができるように工夫されている。またすべての教材に二次元コードが掲載され、個別での練習ができるなど個別最適な学びへの配慮がある。鍵盤ハーモニカやリコーダーの学習の導入においては、スモールステップでの活動や視覚的な説明により、思いや意図にあった表現をするための必要な技能を習得できるような配慮がある。
図画工作	116	日文	表現の領域と鑑賞の領域が全て一体化しており、表現活動の途中や最後に、作品を互いに鑑賞し合うことによって新しい見方、感じ方が広がり、次の造形活動への意欲やヒントとなるような題材構成になっている。また、全学年にしたことや思ったこと感じたことなどを絵にする生活画の題材が設けてある。児童の日常生活と造形活動を結びつけてあり、自分の思いを表現する楽しさを味わわせることができる内容となっている。
家庭	9	開隆堂	発達段階など実態に応じて、簡単なものから繰り返すことができるように、スモールステップで学習を進められる題材が配列されている。題材数が多い分、学年の偏りなく、バランス良く内容が網羅されている。また、技能の取り扱いは、めあてや評価の観点「できたかな」が具体的に示しており、技能習得の手立てとなる内容となっている。
保健	2	東書	基礎・基本的な知識が簡潔にまとめられ、重要語句が太字になっていて分かりやすい。また、学習内容ごとに活用する学習過程（「まとめ・生かす」）では、筋道を立てて説明する活動を位置付けており、習得した知識を言語活動や体験的活動等により活用することができるように工夫されている。
英語	9	開隆堂	外国語活動からの接続がスムーズにいくよう、まとめられている。最初に単元のゴールと各時間のめあてが示され、学習の見通しを持たせている工夫がなされている。また、全ての時間、言語活動を行うことで学習が進められるようになっており、学習の積み重ねができる構成となっている。
道徳	2	東書	全学年、「安心・安全」「いじめ」「情報モラル」「いのち」「自分」の5つを重点指導事項とし、授業と授業、授業とコラムのようにユニット化して、他の学習とつなげたり、普段の生活に広げたりして、重点指導事項の内容項目を深めたり広げたりする意図が感じられる配列となっている。また、全教材に、二次元コードが載せてあり、朗読やスライドショー、デジタルノートを閲覧できる工夫がなされている。